

教えてもらおうという意識が強く、自分の考えを持って、すすんで活動することが少ない。

(3) 現職教育実践の反省から

昭和五十七、五十八年度の二年間、研究主題「すすんで自然を探究する子どもを育成するために、指導計画の改善、充実をどう図ればよいか」についての研究を進めてきた。その反省の中で次の点が問題点としてのこされた。

- 児童の実態把握に地域性が十分加味されておらず、指導計画とのかかわらせ方の追究が不十分であること。
- 再構成された指導計画が、子どもの学習の中に十分生かされていない。

以上の観点等から、当面の本校の教育課題を「すすんで学習する子どもの育成」ととらえるとともに、そのアプローチとして、地域の素材の教材化とその指導を考え、理科の指導を通してその実現を目指すことにした。つまり、地域にある自然の事物・現象を十分に活用しつつ学習のしかたを身につけていくならば、子どもの興味、関心を引き出し、学習に対しての意欲を高め、すすんで学習する子どもが育つであろうと考え、本主題を設定した。

(二) 研究の仮説

生活に密着した素材を教材化した子どもの主体的な活動を重視した指導過程を構成して指導したならば、自ら問題意識を持ち、問題解決のために考え、すすんで学びとる子どもが育つようになるだろう。

(三) 研究の基本構想(資料1)

二、研究の概要

(一) 理科学習の授業仮説と具体的な指導の手だて

研究仮説を検証するために、学年ブロックごとの授業仮説と具体的な指導の手だてを明確におさえ、研究実践の視点とした。(資料2)

(二) 地域の素材の発掘と教材化

(1) 地域の素材の教材化のねらい  
地域の素材の教材化とは、「指導目標を達成するために、教育内容を有する地域の素材を選びだし、教材として構成することである」と文部省資料で述べている。

本校には、教材となる素材が数多く存在しているが、教材化にあたってはその教材が学習指導要領に基づく指導に適した内容をもち、本校の児童の発達段階や既存の経験からみて、取り扱

資料2 理科学習の授業仮説と具体的な指導の手だて

学年	低 学 年	中 学 年	高 学 年
観点			
事象の提示と発問の工夫による活動のめあての明確化	<p>1. 身近な教材の提示や発問を工夫することにより子どもが興味や関心を持ち、すすんで自然に働かせる活動ができる。</p> <p>① 事象から興味や関心を持つ場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の演示</li> <li>・変化の様子が明確で子ども心をゆり動かすものの提示</li> <li>・子どもの経験に基づく身近なものを教材にした豊かな事象の提示</li> </ul> <p>② 自然に働きかける場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの経験を生かし、意識づける発問の工夫をする。</li> </ul>	<p>1. 身近な教材の提示や発問の工夫をすることにより、子どもが疑問を持ち子どもの発想により、自然を調べようとする活動ができる。</p> <p>① 事象に疑問を持ち、課題に高める場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の演示、子どもの資料、TPの提示</li> <li>・事象の提示</li> <li>・自分の課題をはっきり持たせる</li> <li>・子どもを「あっ」と驚かせ、感動させる事象の提示</li> </ul> <p>② 自然を調べる方法を考える場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先行経験と課題との結びつけ</li> <li>・意欲や期待感を持たせる</li> </ul>	<p>1. 身近な教材の提示や発問の工夫をすることにより、子どもが課題を把握し、子どもの発想をもとに、解決の見通しを持った活動が持続できる。</p> <p>① 事象から課題に高める場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較でき疑問や矛盾を含んだ事象の提示</li> <li>・子どもの先行経験で説明できるものと、できないものが同居した内容の事象の提示</li> </ul> <p>② 見通しを持ちうる方法を考える場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録から考えを見取り、話し合わせる</li> </ul>
子ども相互のかかわり合いの追究過程への位置づけ	<p>2. 自然に疑問をもったり働きかけたりする場において友だちと話し合ったり、よいところをまねたりすることによって子ども同士が助け合い、進んで活動できる。</p> <p>① 友だちに話しかける場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉だけでなく作った物や動作等で話しかける</li> </ul> <p>② 助け合って深める場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の分担をさせる</li> <li>・相談し合う場をもうける</li> </ul>	<p>2. 課題を意識したり、観察実験をまとめてめたりする場において、個々の考えを出し合い、よりよい考えにまとめあげていくことによって、子ども同士の意欲的な活動ができる。</p> <p>① 考えのずれを見つけ話し合いを深める場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半具体物で話し合いをさせる</li> </ul> <p>② 小集団活動を学習課程に位置づけ、個を高めていく場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力しながら、よりよい考えに練り上げさせる</li> </ul>	<p>2. 課題を意識したり、観察実験をまとめてめる場において個々の情報を交換し集団で話し合い、分かり合っていくことにより、自主的・協力的な活動を展開できる。</p> <p>① 筋道を立てて小集団や全体で話し合いを深めていく場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対立する考えをとり上げ異同の明確化をはかる</li> <li>・友だちの発表内容に対する意志を表明させる</li> <li>・自分の結論を証拠をあげて発表させる</li> </ul>